

# C/C++プログラミング

## 第8回

文字列とポインタの演習

# 文字列とポインタ：C++

## List8-1 文字列リテラル

---

```
// 文字列リテラルの型と大きさを表示

#include <iostream>
#include <typeinfo>

using namespace std;

int main()
{
    cout << "■文字列リテラル\"ABC\"\n";
    cout << " 型：" << typeid("ABC").name()
        << " 大きさ：" << sizeof("ABC") << "\n\n";

    cout << "■文字列リテラル\"\"\n";
    cout << " 型：" << typeid("").name()
        << " 大きさ：" << sizeof("") << "\n\n";

    cout << "■文字列リテラル\"ABC\\0DEF\"\n";
    cout << " 型：" << typeid("ABC\0DEF").name()
        << " 大きさ：" << sizeof("ABC\0DEF") << "\n";
}
```

---

# 文字列とポインタ：C++

「

```
cout << "■文字列リテラル\"ABC\"\n";
cout << " 型：" << typeid("ABC").name()
    << " 大きさ：" << sizeof("ABC") << "\n\n";
```

」

二重引用符「"」で囲んだ文字列を**文字列リテラル**という。

文字列リテラルは計算機のメモリ上に **const char 型 の配列**として格納され、文字列の最後に「ナル文字」である「\0」が自動付加される。例えば "ABC" はメモリ上は 「ABC\0」と格納される。より具体的には A, B, C, \0 の合計4つの要素からなる**char型の配列**として格納される。

「**typeid("ABC").name()**」によって、文字列リテラル「ABC\0」がメモリ上に確保され、かつその「型」の「名前」を表す。この例の場合要素数4のchar型配列である。

実行結果は教科書では「char const [4]」となっているが、コンパイラに依存する。

「**sizeof("ABC")**」によって文字列リテラル「ABC\0」の配列の要素数4を表す。

「**cout << " 型：" << typeid("").name()**」では文字列リテラル「""」 = 「"\0"」の場合の型の名前が表示される。要素数は1である。

「**cout << " 型：" << typeid("ABC\0DEF").name()**」では文字列リテラル「"ABC\0DEF"」 = 「"ABC\0DEF\0"」の場合の型の名前が表示される。要素数は8。ただし「ナル文字」は文字列の最後を表すので、これは文字列「ABC」と文字列「DEF」が連なった文字列リテラルとみなされる。

# 文字列とポインタ: C++

文字列リテラルの末尾には  
ナル文字が付加される

a "ABC"

A | B | C | \0

b ""

\0

c "ABC\0DEF"

A | B | C | \0 | D | E | F | \0

**Fig.8-1** 文字列リテラルとその内部

# 文字列とポインタ: C++

## List8-2 文字列リテラルと配列

---

```
// 配列に文字列を格納して表示（代入）
```

```
#include <iostream>
```

```
using namespace std;
```

```
int main()
```

```
{
```

```
    char s[4];           // 文字列を格納する配列
```

```
    s[0] = 'A';          // 代入
```

```
    s[1] = 'B';          // 代入
```

```
    s[2] = 'C';          // 代入
```

```
    s[3] = '\0'; // 代入
```

```
    cout << "配列sに入っている文字列は\"" << s << "\""です。\\n"; // 表示
```

```
}
```

---

# 文字列とポインタ: C++

「

char s[4];

」

文字列リテラルはメモリ上ではchar型配列として格納されるのであった。そこで文字列を格納するための領域を確保するために char s[4] と宣言する。

「

```
s[0] = 'A';           // 代入
s[1] = 'B';           // 代入
s[2] = 'C';           // 代入
s[3] = '\0'; // 代入
```

」

配列 s[4] の各要素に文字 'A', 'B', 'C', '\0' を格納していく。

「

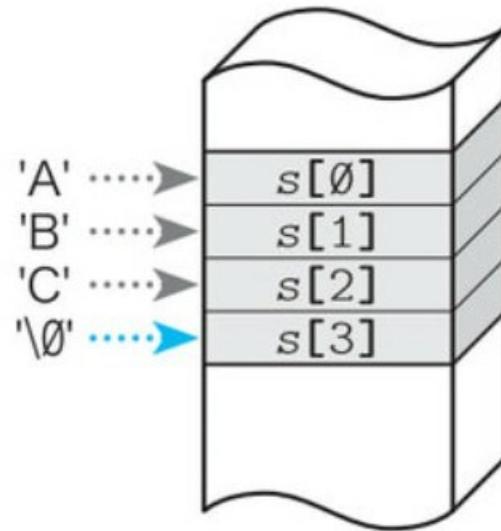
```
cout << "配列sに入っている文字列は\"" << s << "\""です。\\n";
```

」

配列 s[4] に対して「s」はその配列の先頭のアドレスを表すのだった。

cout << s とすると、その配列の各要素が順番に出力される。この例の場合、「ABC」と表示される。

# 文字列とポインタ: C++



**Fig.8-2** 配列に格納する文字列

# 文字列とポインタ: C++

## List8-3 文字列リテラルと配列

---

```
// 配列に文字列を格納して表示（初期化）
```

```
#include <iostream>
```

```
using namespace std;
```

```
int main()
```

```
{
```

```
    char s1[] = {'A', 'B', 'C', '\0'};
```

```
    char s2[] = {"ABC"};
```

```
    char s3[] = "ABC";
```

```
    cout << "配列s1に文字列\"" << s1 << "\"が格納されています。\\n";
```

```
    cout << "配列s2に文字列\"" << s2 << "\"が格納されています。\\n";
```

```
    cout << "配列s3に文字列\"" << s3 << "\"が格納されています。\\n";
```

```
}
```

---

# 文字列とポインタ: C++

「

```
char s1[] = {'A', 'B', 'C', '\0'};  
char s2[] = {"ABC"};  
char s3[] = "ABC";
```

」

文字列配列の様々な初期化. 結果は同じになる.

# 文字列とポインタ：C++

## List8-5 キーボードからの文字列の読み込み

---

```
// 名前を尋ねて挨拶（文字列の読み込みと表示）
```

```
#include <iostream>
```

```
using namespace std;
```

```
int main()
```

```
{
```

```
    char name[36];
```

```
    cout << "お名前は：" ;
```

```
    cin >> name;
```

```
    cout << "こんにちは、" << name << "さん!!\n" ;
```

```
}
```

---

# 文字列とポインタ: C++

「

```
char name[36];  
  
cout << "お名前は：";  
cin >> name;
```

」

文字列配列にキーボードから入力。この例の場合、36文字以上の入力は保証されない。

読み込む文字数に制限を設けたい場合は、プログラムの網かけ部を以下のコードに置きかえます

「

```
char name[36];  
  
cout << "お名前は：";  
cin.getline(name, 36);  
」
```

# 文字列とポインタ: C++

## List8-6 関数間の文字列の受け渡し

---

```
// 受け取った文字列を表示

#include <cctype>
#include <iostream>

using namespace std;

//--- 文字列sを表示 ---//
void put_str(const char s[])
{
    for (int i = 0; s[i] != 0; i++)
        cout << s[i];
}

int main()
{
    char str[36];

    put_str("文字列 : ");
    cin.getline(str, 36);

    put_str(str);
    cout << '\n';
}
```

---

# 文字列とポインタ：C++

```
「  
void put_str(const char s[])
{
    for (int i = 0; s[i] != 0; i++)
        cout << s[i];
}  
」
```

文字列を表示する関数。この関数を呼び出す関数（本例の場合はmain関数）から文字列リテラルのアドレスあるいは文字列配列のアドレスが「const char s[]」に引き渡されコピーされる。この関数の本体では文字列配列 s[ ] の各要素 s[i] を、 s[i] の中身がナル文字でない限り（つまり s[i] != 0）標準出力に出力する。

```
「  
put_str("文字列 : ");
」
```

文字列リテラル "文字列：" を put\_str に引き渡し画面表示させる。

```
「  
char str[36];
cin >> str;
put_str(str);
」
```

文字列配列 str を定義し、 str に文字列をキーボード入力する。 put\_str(str) では文字列配列の先頭アドレスを put\_str に引き渡し、画面印字させる。

# 文字列とポインタ: C++

## List8-8 ポインタによる文字列の扱い

---

```
// 配列による文字列とポインタによる文字列

#include <iostream>

using namespace std;

int main()
{
    char str[] = "ABC";           // 配列による文字列
    char* ptr  = "123";          // ポインタによる文字列

    cout << "str = \"" << str << "\"\n";
    cout << "ptr = \"" << ptr << "\"\n";
}
```

---

# 文字列とポインタ：C++

```
「  
char* ptr = "123";
```

```
cout << "ptr = \"" << ptr << "\"\n";
```

」

ポインタの章で説明したように、ポインタを用いて配列を扱えた。そこでこの例では、ポインタ変数 ptr を文字列リテラル "123" を代入することにより、対応する文字列配列の先頭アドレスを ptr にセットする。

これ以降、ptr は "123" が格納された文字列配列の先頭アドレスを表すので、  
「cout << ptr」で "123" の文字列が標準出力に表示される。

## 注意：危険な書き方

```
char* ptr = "123";
```

上記の "123" は文字列リテラル（定数）であり、実体は const char[4] ですこれを char\* に代入すると const が外れ、\*ptr = 'X' などで書き換えを行った場合、未定義動作（典型的にはクラッシュやメモリエラー）になります。

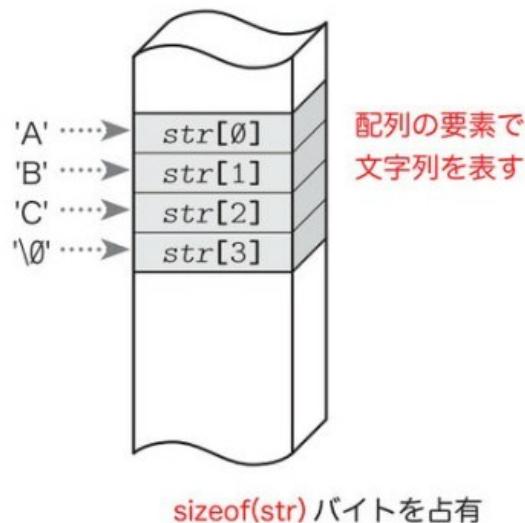
## 変更しない前提の推奨記法（安全）

```
const char str[] = "123"; // 書き換え不可の配列
```

# 文字列とポインタ：C++

a 配列による文字列

```
char str[] = "ABC";
```



b ポインタによる文字列

```
char* ptr = "123";
```

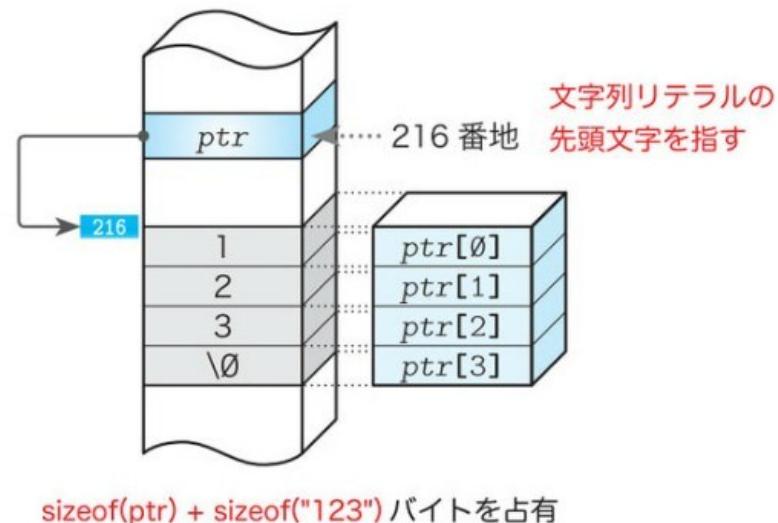


Fig.8-5 配列による文字列とポインタによる文字列

# 文字列とポインタ：C++

## List8-11 文字列の配列

---

```
// 配列による文字列とポインタによる文字列

#include <iostream>

using namespace std;

int main()
{
    char a[][5] = {"LISP", "C", "Ada"};      // 配列による文字列の配列
    char* p[]  = {"PAUL", "X", "MAC"};      // ポインタによる文字列の配列

    for (int i = 0; i < 3; i++)
        cout << (void *)a[i] << ", " << "a[" << i << "] = \""
            << a[i] << "\"\n";

    for (int i = 0; i < 3; i++)
        cout << (void *)p[i] << ", " << "p[" << i << "] = \""
            << p[i] << "\"\n";
}
```

---

# 文字列とポインタ：C++

「

```
char a[][5] = {"LISP", "C", "Ada"}; // 配列による文字列の配列  
char* p[] = {"PAUL", "X", "MAC"}; // ポインタによる文字列の配列
```

」

1行目は「要素型が要素数5のchar型配列」の配列を宣言し、`a[0][]` は文字列リテラル "LISP"、`a[1][]` は "C"、`a[2][]` は "Ada"、と初期化する。

2行目はchar型のポインタの配列を宣言し、`p[0]` は文字列リテラル "PAUL" へのポインタ、`p[1]` は "X" へのポインタ、`p[2]` は "MAC" へのポインタ、と初期化する。

「

```
for (int i = 0; i < 3; i++)  
    cout << (void *)a[i] << ", " << "a[" << i << "] = \"\" << a[i] << "\"\n";
```

」

「

```
for (int i = 0; i < 3; i++)  
    cout << (void *)p[i] << ", " << "p[" << i << "] = \"\" << p[i] << "\"\n";
```

」

それぞれ多次元配列 `a`、ポインタ配列 `p` を用いて文字列を印字する。

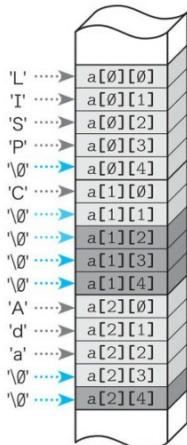
# 文字列とポインタ：C++

a 2次元配列版

《配列による文字列》の配列

```
char a[][] = {"LISP", "C", "Ada"};
```

すべての構成要素が連続して配置される



各構成要素は、初期化子として与えられた文字列リテラル中の文字とナル文字で初期化される。

	0	1	2	3	4
0	L	I	S	P	\0
1	C	\0	\0	\0	\0
2	A	d	a	\0	\0

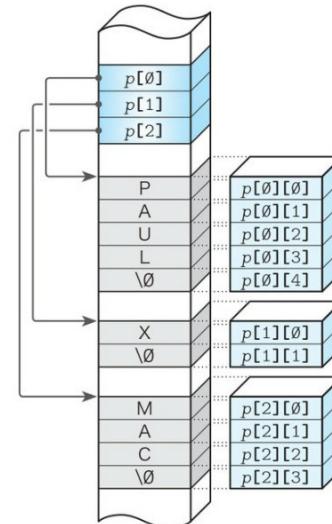
`sizeof(a)` バイトを占有

b ポインタの配列版

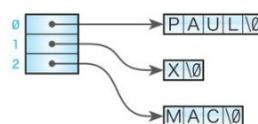
《ポインタによる文字列》の配列

```
char* p[] = {"PAUL", "X", "MAC"};
```

文字列の配置の順序や連續性は保証されない



各要素は、初期化子として与えられた文字列リテラルの先頭文字を指すよう初期化される。



`sizeof(p) + sizeof("PAUL") + sizeof("X") + sizeof("MAC")` バイトを占有

Fig.8-7 文字列の配列（2次元配列とポインタの配列）

# cstring ライブライ: C++

## List8-14 strlen 関数

---

```
// strlen関数の利用例（その1）
```

```
#include <cstring>
#include <iostream>

using namespace std;

int main(void)
{
    char str[100];

    cout << "文字列を入力してください : ";
    cin >> str;

    cout << "文字列\"" << str << "\"の長さは" << strlen(str) << "です。 \n";
}
```

---

# cstring ライブライ: C++

「

```
#include <cstring>
```

」

cstring ライブライを用いるためのヘッダ

「

```
cout << "文字列\"" << str << "\"の長さは" << strlen(str) << "です。 \n";
```

」

関数 strlen は文字列の長さを返す。

「日本語」と入力した場合、端末が UTF-8 エンコーディングを使用していると、一つの漢字は通常 3バイトになります。

# cstring ライブライ: C++

## ■ strcpy, strncpy : 文字列をコピーする

文字列をコピーするのが、**strcpy 関数**と**strncpy 関数**です。**strcpy 関数**は、文字列を丸ごとコピーします。もう一つの**strncpy 関数**は、文字数に制限を設けた上でコピーを行う関数です（Fig.8-9）。

### strcpy

ヘッダ `#include <cstring>`

形 式 `char* strcpy(char* s1, const char* s2);`

解 説 *s2* が指す文字列を、*s1* が指す配列にコピーする。コピー元とコピー先が重なる場合の動作は定義されない。

返却値 *s1* の値を返す。

### strncpy

ヘッダ `#include <cstring>`

形 式 `char* strncpy(char* s1, const char* s2, size_t n);`

解 説 *s2* が指す文字列を、*s1* が指す配列にコピーする。*s2* の長さが *n* 以上の場合は *n* 文字までをコピーし、*n* より短い場合は残りをナル文字で埋めつくす。コピー元とコピー先が重なる場合の動作は定義されない。

返却値 *s1* の値を返す。

# cstring ライブライ: C++

## List8-16 strcpy 関数と strncpy 関数

---

```
// strcpy関数とstrncpy関数の利用例

#include <cstring>
#include <iostream>

using namespace std;

int main(void)
{
    char tmp[16];
    char s1[16], s2[16], s3[16];

    cout << "文字列を入力してください : ";
    cin >> tmp;

    strcpy(s1, strcpy(s2, tmp)); // s2にコピーした文字列をs1にもコピー

    cout << "文字列s1は\"" << s1 << "\"です。\\n";
    cout << "文字列s2は\"" << s2 << "\"です。\\n";
    cout << "文字列s3は\"" << strcpy(s3, tmp) << "\"です。\\n";

    char* x = "XXXXXXXXXX";      // 9個の'X'とナル文字 */

    strcpy(s3, x); strncpy(s3, "12345", 3); cout << "s3 = " << s3 << "\\n";
    strcpy(s3, x); strncpy(s3, "12345", 5); cout << "s3 = " << s3 << "\\n";
    strcpy(s3, x); strncpy(s3, "12345", 7); cout << "s3 = " << s3 << "\\n";
    strcpy(s3, x); strncpy(s3, "1234567890", 9); cout << "s3 = " << s3 << "\\n";
}
```

---

# cstring ライブライ: C++

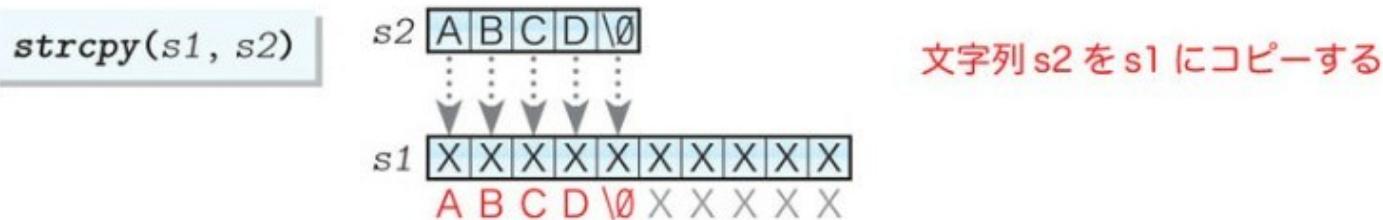
「

`strcpy(s1, strcpy(s2, tmp)); // s2にコピーした文字列をs1にもコピー`

」

`strcpy(s2, tmp)` は `tmp` の文字列を `s2` にコピーする。返値は `s2`。

`strcpy(s1, strcpy(s2, tmp))` は `s2` の文字列を `s1` にコピーする。返値は `s1`。  
コピーのルールは下の図の通り。



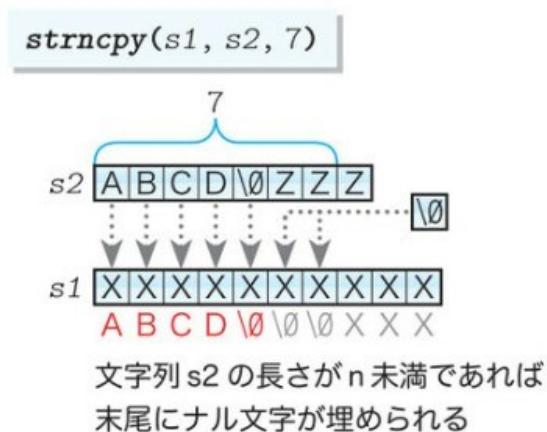
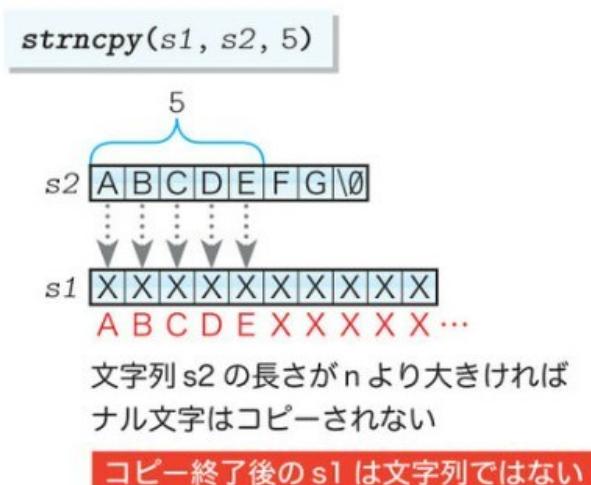
# cstring ライブライ: C++

「

```
strncpy(s3, "12345", 3);  
strncpy(s3, "12345", 5);  
strncpy(s3, "12345", 7);  
strncpy(s3, "1234567890", 9);
```

」

strncpy(s3, "12345", 3) は文字列 "12345" の最初の3文字 ("123") をs3の文字列にコピーする。返値はs3。以下同様。コピーのルールは下の図。



**Fig.8-9** strcpy 関数と strncpy 関数の働き

# cstring ライブライ: C++

## ■ **strcat, strncat** : 文字列を連結する

**strcat 関数**と**strncat 関数**は、文字列を連結する関数です。前者は文字列を丸ごと連結し、後者は文字数に制限を設けた上での連結を行います。

- ▶ “cat” は、『連結する』という意味の concatenate に由来します（猫ではありません）。

### strcat

ヘッダ `#include <cstring>`

形 式 `char* strcat(char* s1, const char* s2);`

解 説 `s2` が指す文字列を、`s1` が指す文字列の末尾に連結する。コピー元とコピー先が重なる場合の動作は定義されない。

返却値 `s1` の値を返す。

### strncat

ヘッダ `#include <cstring>`

形 式 `char* strncat(char* s1, const char* s2, size_t n)`

解 説 `s2` が指す文字列を、`s1` が指す文字列の末尾に連結する。`s2` の長さが `n` より長い場合は、切り捨てる。コピー元とコピー先が重なる場合の動作は定義されない。

返却値 `s1` の値を返す。

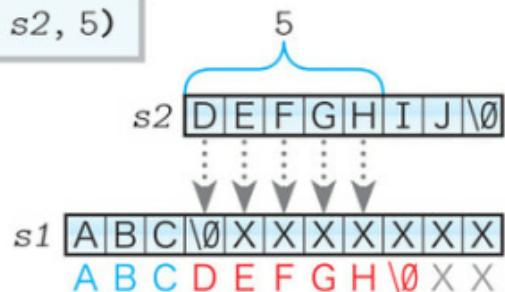
# cstring ライブラリ: C++

`strcat(s1, s2)`



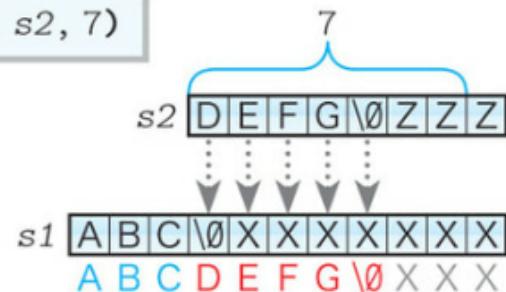
文字列  $s2$  を  $s1$  の末尾に連結する

`strncat(s1, s2, 5)`



文字列  $s2$  の長さが  $n$  より大きければ  
 $s2$  の先頭  $n$  文字とナル文字を連結

`strncat(s1, s2, 7)`



文字列  $s2$  の長さが  $n$  未満であれば  
ナル文字までを連結する

**Fig.8-11** `strcat` 関数と `strncat` 関数の働き

# cstring ライブライ: C++

## List8-17 strcat 関数と strncat 関数

---

// strcat関数とstrncat関数の利用例

```
#include <cstring>
#include <iostream>

using namespace std;

int main(void)
{
    char s[10];
    char* x = "ABC";

    strcpy(s, "QWE"); // sは"QWE"となる
    strcat(s, "RTY"); // sは"QWERTY"となる
    cout << "s = " << s << '\n';

    strcpy(s, x);    strncat(s, "123", 1);    cout << "s = " << s << '\n';
    strcpy(s, x);    strncat(s, "123", 3);    cout << "s = " << s << '\n';
    strcpy(s, x);    strncat(s, "123", 5);    cout << "s = " << s << '\n';
    strcpy(s, x);    strncat(s, "12345", 5);  cout << "s = " << s << '\n';
    strcpy(s, x);    strncat(s, "123456789", 5);cout << "s = " << s << '\n';
}
```

---

# cstring ライブライ: C++

## ■ strcmp, strncmp : 文字列を比較する

**strcmp 関数**と**strncmp 関数**は、二つの文字列を比較する関数です。文字列を丸ごと比較するのが**strcmp**関数で、比較する文字数に制限を設けるのが**strncmp**関数です。

### strcmp

ヘッダ `#include <cstring>`

形 式 `int strcmp(const char* s1, const char* s2);`

解 説 `s1` が指す文字列と `s2` が指す文字列の大小関係（先頭から順に 1 文字ずつ `unsigned char` 型の値として比較していき、異なる文字が出現したときに、それらの文字の対に成立する大小関係とする）の比較を行う。

返却値 等しければ `0`、`s1` が `s2` より大きければ正の整数値、`s1` が `s2` より小さければ負の整数値を返す。

### strncmp

ヘッダ `#include <cstring>`

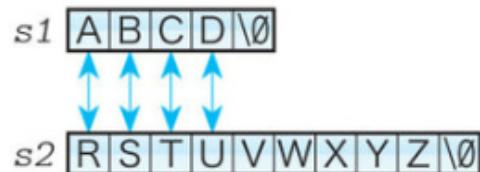
形 式 `int strncmp(const char* s1, const char* s2, size_t n);`

解 説 `s1` が指す文字の配列と `s2` が指す文字の配列の先頭 `n` 文字までの大小関係の比較を行う。ナル文字以降の文字は比較しない。

返却値 等しければ `0`、`s1` が `s2` より大きければ正の整数値、`s1` が `s2` より小さければ負の整数値を返す。

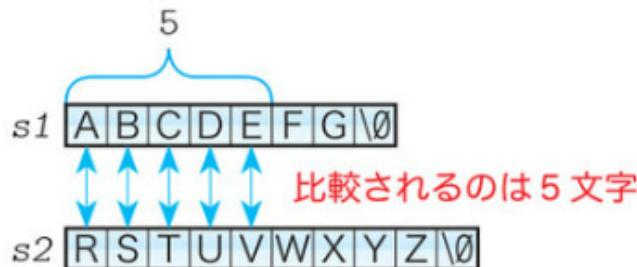
# cstring ライブライ: C++

`strcmp(s1, s2)`



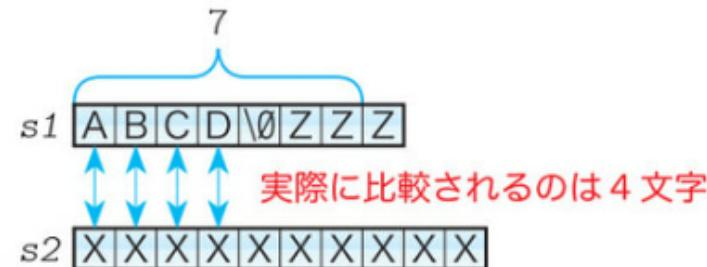
文字列 s1 と s2 を比較する

`strncmp(s1, s2, 5)`



文字の配列 s1 と s2 の先頭 5 文字を比較する

`strncmp(s1, s2, 7)`

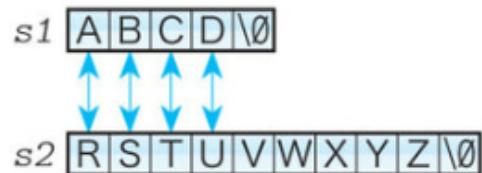


文字の配列 s1 と s2 の先頭 7 文字を比較する

**Fig.8-12** strcmp 関数と strncmp 関数の働き

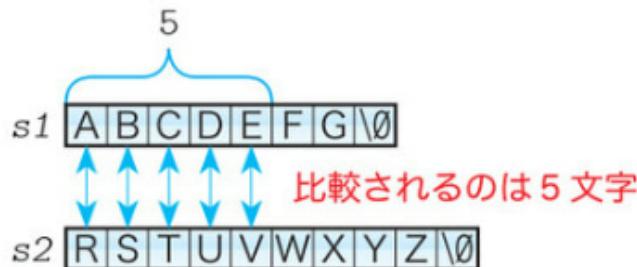
# cstring ライブライ: C++

`strcmp(s1, s2)`



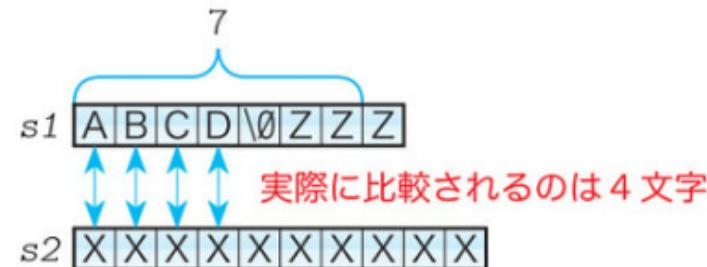
文字列 s1 と s2 を比較する

`strncmp(s1, s2, 5)`



文字の配列 s1 と s2 の先頭 5 文字を比較する

`strncmp(s1, s2, 7)`



文字の配列 s1 と s2 の先頭 7 文字を比較する

**Fig.8-12** strcmp 関数と strncmp 関数の働き

## cstring ライブライ: C++

本日の授業内容は、C/C++ における文字列のメモリ割り当てと利用様式の理解を目的とします。

- C言語では、`char str[len];` で定義される「文字列」の本質は文字配列であり、末尾に '\0' が必要です。
- C言語は初期の高級言語として、メモリと末尾の '\0' を開発者自身が注意深く管理する必要があります。
- 入力・連結・コピー等の操作では必ず長さを明示的に制限してください。境界を超えると未定義動作となり、不具合は潜伏的で深刻、かつ原因追跡が困難です。

実務では、`std::string` を優先的に使用してください。十分にカプセル化された文字列型であり、より安全で可読性が高く、扱いやすいです。

# cstring ライブライ: C++

// 1) 文字列の構築と代入

```
string s = "abc"; // 直接初期化  
string s2 = "123456";  
s2 = s; // 代入 (コピー)
```

**std::string のよく使う操作**

// 2) 結合 (連結)

```
string s3 = s + s2; // 演算子 +  
s2 = s2 + "!@#"; // さらに連結
```

// 3) アクセスと属性

```
cout << "s.size()=" << s.size() << ", s.empty()=" << s.empty() << "\n";  
cout << "s[0] =" << s[0] << ", s.at(1) =" << s.at(1) << "\n"; // at は境界チェックあり
```

// 4) 比較 (辞書順)

```
if (s == s2) cout << "s == s2\n";  
else if (s < s2) cout << "s < s2\n";  
else cout << "s > s2\n";
```

// 5) 部分文字列 : substr(pos, len)

// len を省略すると末尾まで。pos > size の場合は例外を投げる

```
string sub1 = s3.substr(1, 3); // 位置1から3文字  
string sub2 = s3.substr(2); // 位置2から末尾まで  
cout << "sub1=" << sub1 << ", sub2=" << sub2 << "\n";
```

// 6) 入出力 (cin / cout)

```
cout << "単語を入力してください: ";  
cin >> s; // 単語入力 : 空白で区切られる  
cout << "入力(単語) = " << s << "\n";
```

# 課題

## 課題8-1 (プログラム名 : ex08\_1.cpp)

文字列を逆順に並べ替える関数を実装せよ。

- 関数プロトタイプ

```
void reverse_string(char str[]);
```

- main で長さ10未満の文字列（英数字のみ）をキーボードから読み取り、  
reverse\_string を呼び出してその場で逆順に並べ替え、結果を出力すること。

### 【実行例】

例1

入力 :

abcdef↙

出力 :

fedcba

↙ : enter

例2

入力 :

a↙

出力 :

a

```
#include <iostream>
#include <cstring>
using namespace std;

void reverse_string(char str[])
{
    // この関数を完成させること
}

int main()
{
    char s[10] = {0};
    cin.getline(s, 10);
    reverse_string(s);
    cout << s << '\n';
}
```

# 課題

## 課題8-2 (プログラム名 : ex08\_2.cpp)

2つの文字列を読み取り 「A and B」 の形式で出力せよ。

- キーボードから 6文字以内 の文字列（日本語および英数字の入力を可）を2つ読み取りなさい。
- 出力は <1つ目> and <2つ目>（両側に半角スペースを入れる）としなさい。

### 【実行例】

例1

入力 :

abc ↴

123 ↴

出力 :

abc and 123

例2

入力 :

麗澤大学 ↴

世界 ↴

出力 :

麗澤大学 and 世界

↳ : enter

# 課題

## 課題8-3 (プログラム名 : ex08\_3.cpp)

### 部分文字列判定

- キーボードから文字列 A と B (長さ10未満、英数字のみ) を読み取り、B が A の部分文字列であるかを判定しなさい。
- 部分文字列であれば「True」、そうでなければ「False」を出力しなさい。

### 【実行例】

例1

入力 :

abcdef↙

cd↙

出力 :

True

例2

入力 :

abc↙

abc↙

出力 :

True

例3

入力 :

cd↙

abcdef↙

出力 :

False

例4

入力 :

aabbcc↙

abc↙

出力 :

False

↙ : enter